

## ASEAN グローバルプログラム に参加して

樽谷直樹  
Naoki TARUTANI  
物質化学科 2年

### 1. はじめに

私は、8月28日から9月6日に龍谷大学のプログラム一貫である ASEAN グローバルプログラムに参加した。プログラムでは、ベトナムのハノイとシンガポールを訪問した。ベトナムでは現地の学生とのPBL、日系企業や現地企業の訪問などを行い、シンガポールでは、現地の大学を訪問し、体験講義や施設見学などを行え、最後にはシンガポールで働く日本人のビジネスパーソンとのトークセッションというプログラムだった。このプログラムの具体的な日程を表に示す。

表 プログラム日程

|         |                    |
|---------|--------------------|
| 8/28(火) | ベトナム入国,オリエンテーション   |
| 8/29(水) | 企業見学               |
| 8/30(木) | 現地学生とのPBL          |
| 8/31(金) | 現地学生とのPBL(発表)      |
| 9/1(土)  | 自由時間               |
| 9/2(日)  | シンガポール入国,オリエンテーション |
| 9/3(月)  | 現地大学の訪問            |
| 9/4(火)  | 現地企業の訪問,ビジネスマンと交流  |
| 9/5(水)  | 自由時間               |
| 9/6(木)  | 帰国                 |

本稿では、参加目的や研修内容と私が感じた日本と海外の違い、プログラムに参加して得たものを報告する。

### 2. 参加目的

私が今回の研修に参加した目的は、大きく分けて2つある。

1つ目は自分の英語力を上昇させるためである。日本にいと海外の人と話すことが少なく、自分の

英語力が上昇しにくいと考えた。そのためこのプログラムに参加することによって、英語力を上昇させようと考えた。

2つ目の理由として、私は将来海外で働きたいと考えており、将来は大学で学んだことを活かして海外で働きたいと思っている。そのために海外で様々な経験を積んだり、見たりすることで今後の進路選択の材料にしたいと考えた。

将来海外で働くために、このプログラムに参加することで英語力上昇と海外経験を得られると考えた。

### 3. 研修内容

私が最も印象に残っているプログラム内容は、9月4日にシンガポールで行われた4人のビジネスマン(衣笠さん、古林さん、芝崎さん、築野さん)との交流と加藤順彦氏の講演会である。このことについて以下に詳しく述べる。

ビジネスマンの方々とは、個別に話を聞くことができた。ここではプライベートな話から会社の話まで幅広く聞くことができ、とても勉強になった。また、質問なども班ごとに聞けた為、自分が不安に感じている部分などにもしっかり答えてくださった。

特に衣笠さんの話は日本とシンガポールの文化の違いによって生じた問題などを中心に答えて頂き、異国間での考え方の違いについて詳しく話を聞いた。日本は時間を守ることが当たり前だが、シンガポールではそんなことはなく、5分以上遅れてくることは当たり前だそう。しかし、時間を守ってほしい時はその人を説得し、何とか時間どおりに出勤してくれるようになったという話も聞いた。私はこの話を聞いて日本と海外の時間の考え方の違いにより、単に「常識」では説得できない苦労があることを学べた。この時、別日にベトナムのNTQという会社を訪問した際に、日本人の価値観や考え方は海外の人にはとても理解の難しいと、ベトナムの企業の方がおっしゃっていたのを思いだした。



写真1 ビジネスマンの方々との交流会の様子

海外で働いている方々の話を聞くことによって、今の自分の考えている進路や人間関係なども大きく見直し、特に就職に対する考え方は大きく変わった。

ビジネスパーソンの方々との交流会の後は、加藤順彦氏による講演会を視聴した。加藤さんは「若者よ、アジアのウミガメとなれ」の著者であり、講演の主な内容は、加藤氏の学生時代にビジネスの世界に入った話や、起業当初の苦難などの話であった。

加藤氏の話の中で、日本はこれから高齢化が進みブランドスイッチが起こりにくくなるため、将来、各業界の1位のみしか生き残れないという話には大きな衝撃を受けた。また、学生時代の苦難などのお話を聞いて、私と全く違う学生生活を送っており、とても刺激を受けた。講演会が終わった後、私も加藤氏のような海外から日本に刺激を与えられるような存在になりたいと考えるようになった。

また、加藤氏は学生時代から多くの失敗を積み重ね、今はアジアを中心に仕事をなさっている。このことから私も今のうちにたくさんの経験を積み重ね、様々なものを見るのが重要で、将来の自分に繋がると感じた。



写真2 加藤氏の講演会の様子

最後に加藤氏に著書である「若者よ、アジアのウミガメとなれ」の本をいただいた。今回の講演会でお話されたことを詳しく書かれており、とても勉強になるので、読まれてない方は読まれることをお勧めする。

#### 4. おわりに

今回のプログラム内容では、ビジネスパーソンの方々や加藤氏だけでなく、海外で働くいろいろな方々からお話を聞く機会が多くあった。その中でほとんどの人が学生の時に海外へ行き、それがきっかけとなり海外で働くようになった方が多いように感じた。また、ビジネスパーソンの方々の話を聞き将来の自分の海外で働きたいと考える気持ちはさらに高くなったが、自分の英語力の無さも実感したプログラムであった。

当初の目的がすべて達成されたわけではないが、今回のプログラムを通じて自分の強みと弱みが見えきりした。さらに、普段経験できない施設や会社なども見学させて頂きとても貴重な経験ができた。今回のプログラムで経験したことが今後私の進路決定の大きな材料となると確信している。